

# 日本古生物学会 第 172 回例会

2023年2月3日（金）～2月5日（日）

現地・オンライン ハイブリッド

九州大学 病院キャンパス

## \* \* \* \* \* 1. プログラム 概要 \* \* \* \* \*

2月3日（金）会場：医学部百年講堂大ホール & Zoom ハイブリッド

【13:00–17:00】 シンポジウム「化石鉱脈：高度な情報を含む化石層の実例とその意義」 ii

【17:10– 】 ハイブリッド懇親会 . . . . . iii

2月4日（土）会場：医学部百年講堂中ホール & Zoom ハイブリッド

【9:00–11:45】 会長講演，特別講演 . . . . . iii

【13:00–14:15】 一般講演 口頭発表 1（A-C 会場） . . . . . iv

【14:30–16:00】 一般講演 口頭発表 2（A-C 会場） . . . . . iv

【17:00–18:00】 一般講演 ポスター発表コアタイム（オンライン） . . . . . v

2月5日（日）会場：医学部百年講堂中ホール & Zoom ハイブリッド

【9:00–10:15】 一般講演 口頭発表 3（A-C 会場） . . . . . vii

【10:30–11:45】 一般講演 口頭発表 4（A, B 会場） . . . . . vii

【12:15–13:40】 ランチョン小集会（B 会場& Zoom ハイブリッド） . . . . . viii

発表方法と機器についての注意事項など（必ずお読みください） . . . . . ix

その他（Zoom の準備等） . . . . . x

会場案内 . . . . . xii

第 172 回例会参加費

現地参加：一般会員 5,000 円，学生・友の会会員 2,000 円，名誉会員無料

オンライン参加：一般 3,000 円，学生・友の会会員 1,000 円，名誉会員・高校生以下無料

第 172 回例会は事前登録制です。参加される方は、講演の有無に関わらず、以下のサイトにアクセスして例会専用アカウントを作成し、送られてくる参加仮受付完了メールに記載の URL からログインして、参加登録とクレジット決済を行ってください。

<https://psj172.award-con.com/LOGIN.php>

当日参加はできません。現地では参加受付も決済も一切行いません。

現地参加者は必ず参加者バッジを印刷して会場までお持ちください。

## \* \* \* \* \* 2. プログラム 詳細 \* \* \* \* \*

2月3日 (金)

【13:00-17:00】九州大学病院キャンパス 医学部百年講堂 大ホール & Zoom  
ハイブリッド

### シンポジウム「化石鉱脈：高度な情報を含む化石層の実例とその意義」

コンビナー: 前田晴良 (九州大)・田中源吾 (熊本大)・山田敏弘 (大阪公大)

近年, 例外的な保存を示す化石鉱脈 (fossil Lagerstätten) の発見で, 古生物の進化史や古生態のシナリオが大幅に書き換えられつつある. 日本でもさまざまな書籍を通して, バージェス頁岩化石群など海外の著名な化石鉱脈が知られるようになった. その一方で, 日本など変動帯では化石の保存が悪く, 化石鉱脈の研究には不向きであるという先入観が払拭しきれない現実がある. 今後, 化石鉱脈の研究を進めてゆく上で, いまこそ初心に立ち返ってその本来の意味を自問すべき時期にきていると思われる. 本シンポジウムでは, 単に「見た目が美しい化石」ではなく, 「古生物学的に重要な情報を含む化石(層)」というA. Seilacherらによる化石鉱脈の本来の定義に立ち返って議論することを目的とし, 7件の話題提供をおこなう. そして, ごく普通の化石や化石層から, 「研究者独自の着眼点や技術」によって高度な情報を見いだすプロセスこそ重要である点を強調したい.

- 13:00-13:10 趣旨説明 前田晴良 (九州大)
- 13:10-13:35 師崎層群ソトオリワシ類化石の軟体部保存 (特に発光器)  
前田晴良 (九州大)
- 13:35-14:00 眼の軟体部保存と機能形態学への寄与～昆虫化石から深海魚化石まで～  
田中源吾 (熊本大)
- 14:00-14:25 バージェス頁岩化石群, *Marrella* の保存 日本のバージェスとの比較  
片田はるか (名古屋大)
- 【14:25-14:40】—休憩—
- 14:40-15:05 例外的保存から復元する化石植物の生き様 山田敏弘 (大阪公大)
- 15:05-15:30 新処理法から見えてきた日本産古生代化石の“可能性” 三宅幸雄 (高山市)
- 15:30-15:55 卵殻化石: ありふれた化石から新しい情報を読み解く 田中康平 (筑波大)
- 【15:55-16:10】—休憩—
- 16:10-16:35 微小な軟体動物化石から探る古生態と古環境: 中古生界を例として  
伊左治鎮司 (千葉中央博)
- 16:35-17:00 総合討論

## 【17:10-】 懇親会

17:10-17:40 プレナリの部 百年講堂大ホール & Zoom ハイブリッド

17:40- ブレイクアウトの部 Zoom オンライン

懇親会に予約は必要ありません。第172回例会に参加登録された方ならどなたでも参加できます。現地参加者で前半のプレナリの部に参加される方は、シンポジウム終了後そのまま大ホールにお残り下さい。オンラインで参加される方は、例会専用サイトからZoomのミーティングルームにお入りください。後半のブレイクアウトの部はオンライン専用で、自由に入出りできるブレイクアウト・ルーム（バーチャルな小部屋）を多数用意し、各々懇親して頂けるようにします。参加を希望される方はZoomを最新版にアップデートしておいてください（viiiページ記載事項参照）。5.3.0より古いバージョンで参加された場合、どのブレイクアウトルームにも移動できず、プレナリ用のメイン会場に取り残されてしまうこととなります。

2月4日（土）会場：九州大学病院キャンパス医学部百年講堂中ホール & Zoom

【9:00-10:00】 会長講演（中ホール1, 2, 3 & オンライン同時中継）

西 弘嗣「微化石研究の歴史をふりかえる」

【10:00-10:15】 休憩

【10:15-11:00】 特別講演（中ホール1, 2, 3 & オンライン同時中継）

藤原慎一「四肢動物の前肢の機能形態学

～古生態復元の指標づくりとその先」

【11:00-11:45】 特別講演（中ホール1, 2, 3 & オンライン同時中継）

藪本美孝「現生および化石魚類の分類学的研究」

【11:45-13:00】 休憩

【13:00-14:15】 一般講演 口頭発表 1 (A-C 会場)

A 会場(対面のみ)	B 会場(ハイブリッド)	C 会場(対面のみ)
古海洋・生層序の部 座長:ルグラン ジュリアン	分類・系統の部 座長:松岡廣繁	古生態・形態解析の部 座長:椎野勇太
A01 板木拓也・宮川歩夢・池原実 放散虫群集の自動解析を目指した人工知能による多数クラス分類	B01 吉田純輝・小林快次・アンソニー フィオリロ 現生主竜類における舌喉頭筋骨格系のネットワーク解析と進化的考察	C01 今井拓哉・服部創紀・星野真人・上杉健太郎 大型化石内部の非破壊観察を目的としたシンクロトン放射光活用の進展: SPring-8 における測定事例
A02 板木拓也 バーチャルスライドスキャナを用いた微化石観察の有用性	B02 千田 森・藪本美孝 種子島の下部更新統増田層形之山部層から産出したフグ科魚類	C02 デンジャーフィールド エマ・木村由莉 絶滅種クズウアナグマ ( <i>Meles leucurus kuzuensis</i> ) を含む日本産中型食肉類の前肢形態
A03 向井一勝・田中源吾 北海道今金町より産出した中部中新統介形虫化石群	B03 平山 廉・十津守宏 モロッコ白亜紀のウミガメ化石に関する新知見	C03 荒木 周・野下 浩司 腹足類殻の異なる形態空間占有パターンの理論形態学的解析
A04 小松俊文・山内一輝・前川 匠・高嶋礼詩・小形優加里・山田敏弘・ザンデイン フン ベトナムハーザン省に分布する上部デボン系トックタット層の コノドント生層序とケルワッサー事変層	B04 築地祐太・服部創紀・東 洋一 福井県勝山市の北谷層から産出した新たな獣脚類足跡化石	C04 生形貴男 アンモノイドの成長曲線の逆解析
A05 上村真優子・中田健太郎・松田叡幸・長谷川卓 福井県大野市上半原地域と石徹白川地域の手取層群の炭素同位体比層序とその意義	B05 山北 聡 中・後期三畳紀 <i>Ellisonia</i> 科(コバント)の多要素分類—特に <i>Cornudina</i> と <i>Chirodella</i> の関係について—	C05 成瀬 元・小川琴奈 生物攪拌強度を考慮した堆積物からの初生環境情報の逆解析

【14:15-14:30】 休憩

【14:30-16:00】 一般講演 口頭発表 2 (A-C 会場)

A 会場(対面のみ)	B 会場(ハイブリッド)	C 会場(対面のみ)
分類の部 1 座長:北川博道	古生態の部 1 座長:山田敏弘	分類の部 2 座長:小松俊文
A06 池上直樹・スカネラ ジョン 熊本県に分布する御船層群から初めて産出した恐竜類の卵殻化石	B06 大山 望・湯川弘一・今井拓哉 上部白亜系大道谷層(福井県勝山市)の昆虫類化石	C06 吉永亘希・廣瀬浩司・前田晴良 白亜紀三角貝類: <i>Nipponitrigonia</i> の上部白亜系からの産出
A07 黒須弘美・廣瀬浩司・宮田和周 熊本県天草市の御所浦層群烏帽子層から産出した前期白亜紀の翼竜類化石	B07 鈴木雄太郎・生田領野・安東知夕里 底質への低依存性絶滅ペントスの複眼視覚特性: <i>Hadromeros</i> 三葉虫でのケーススタディ	C07 酒井佑輔・近藤康生・中山健太郎・中田健太郎・鹿澤優祐・松岡 篤 福井県大野市の九頭竜層群貝皿層より産出するトリゴニア類
A08 藪田哲平・小布施彰太・辻野泰之・中尾賢一・宮田和周・中山健太郎 徳島県勝浦町に分布する下部白亜系立川層より産出したシネミス科カメ化石	B08 石寄美乃・椎野勇太 三畳紀の腕足動物ディスキナ類はどう生き残ったか:三畳系大沢層の例	C08 松隈友哉・伊藤泰弘・大山望 下部石炭系秋吉石灰岩層群から産出する腕足類化石の分類学的研究

A 会場(対面のみ)	B 会場(ハイブリッド)	C 会場(対面のみ)
A09 三藤仁以那・松岡廣繁・中川登美雄 福井県の中新統内浦層群から産出したカツオドリ鳥類の頭骨化石	B09 今田弓女・大山 望・篠田健二・高橋文雄・湯川弘一 東アジア最古の潜葉痕化石: 太古の植物と昆虫をつなぐ栄養流	C09 中田健太郎・酒井佑輔・関谷透・藺田哲平・中山健太郎・宮田和周 福井県大野市の中部縦貫自動車道工事において産出した後期ジュラ紀の大型アンモナイト化石
A10 中村冬弥・柴田正輝・Wilailuck Naksri・Duangsuda Chokchaloemwong・中田健太郎・築地祐太・野田芳和・湯川弘一・Pratuerng Jintasakul・東 洋一 下部白亜系コククルアト層(タイ王国)の翼竜類化石について	B10 柳原彩里・田中源吾 上部カンブリア系エイラム頁岩層中の節足動物の殻分析	C10 伊藤綾花・佐野晋一・竹田裕介・伊庭靖弘 赤道太平洋域産ヒップリテスコ厚歯二枚貝の左殻内部形態とその進化史上の意義
A11 田中公教・千葉謙太郎・池田忠広・久保田克博 兵庫県丹波篠山市の下部白亜系篠山層群大山下層から発見された角竜類の系統解析	B11 大路樹生・田切美智雄・安藤寿男・埴 勝利・及川 晃 棘皮動物は大理石に保存されやすい? 変成岩古生物学の可能性の系統解析	

【17:00-18:00】一般講演 ポスター発表(コアタイム: 奇数番号 17:00-17:30, 偶数番号 17:30-18:00 オンラインのみ Zoom 各ブレイクアウトルーム)

P01 半田直人 チュニジアから産出した後期中新世サイ科化石の分類学的再検討 : 北アフリカの中新世サイ科化石相の解明に向けて
P02 仲井大智・Alan Boyde 高解像度の骨組織形態観察像を目指した新たな薄片作成手法
P03 久保田克博・田中康平・池田忠広・田中公教・定森佑夏 兵庫県丹波地域の下部白亜系篠山層群大山下層から発見された主竜類および車軸藻化石の分類学的帰属の検討
P04 丸山啓志・許 書毓・徳川広和・甲能直樹・松岡廣繁・石田吉明・伊左治鎮司・加藤久佳 景観復元画「チバニアン期の海」の製作過程
P05 多田誠之郎・對比地孝亘・Donald J. Morgan III・Lawrence M. Witmer カメ類における吻部血管系の生理学的機能とその進化シーケンス
P06 脇水徳之・岩見恭子・小川由華・對比地孝亘 現生カモ類の上顎吻部における三叉神経経路の解剖学的比較
P07 清水洲平・東 祐大・高田健太郎・小林快次・ヒシグジャフ ツォクトバートル モンゴル国の上部白亜系バヤンシレ層から産出した multitaxic bonebed とハドロサウルス上科化石の報告
P08 東 祐大・西村智弘・小林快次・斎藤優里・太田 晶 北海道後期白亜紀海成層産ハドロサウルス科にみられる生物侵食
P09 吉澤和子・對比地孝亘 魚竜型類の遊泳を駆動した尾部筋肉系復元の試み
P10 Morgane Longuet, Zin-Maung-Maung-Thein, Masanaru Takai New fossils remain of Rhinocerotidae (Perissodactyla) from the early Late Miocene of Tebingan Area, Myanmar
P11 坂根広大・河部壮一郎・田上 響 Liaoceratops における上顎内血管神経管の 分布領域の違いによる形態学的変異について
P12 柴田琉司・秦はるか・中原多聞・林 昭次・安藤達郎 骨組織から考察する Hokkaidornis (プロトブテルム類) の水棲適応
P13 朝倉侑也・平沢達矢 ソメワケササクレヤモリ頭骨における口蓋底関節の発生機構
P14 濱田真実・藪本美孝・久保田克博・入月俊明 兵庫県豊岡市日高町万場の中新統から産出した魚類化石標本

- P16 坂口令旺・中田健太郎・泉賢太郎 下部ジュラ系豊浦層群西中山層から産出する *Protogrammoceras* 属アンモナイトの形態解析及び種間比較
- P17 生野賢司・田中公教・池田忠広・半田久美子 兵庫県丹波市の篠山層群から産出した前期白亜紀腹足類化石
- P18 松原尚志 北海道東部根釧地域の根室層群汐見層に見られる暁新世化石貝類群の転換
- P19 吉村太郎・中山健太郎・安里開士・野田芳和・中川友紀・池田昌之・佐々木猛智 白亜紀の淡水巻貝は何を食べ、どう繁殖していたか？
- P20 延原尊美・池田匡汰・芳賀拓真 シラスナガイ科二枚貝の殻皮型と生息水深
- P21 一田昌宏 X線CTによる紡錘虫類殻の観察について
- P22 遠藤悠一・重田康成 南部北上帯の下部三畳系層序と化石群
- P23 岡田泰政・小竹信宏 沖縄県与那国島に分布する中部中新統八重山層群から産した 生痕化石 *Protovirgularia dichotoma* の形成者はトビハゼか？
- P24 石川牧子・加瀬友喜・小林大祐・荻原音優・筒井秀和 殻形態・微細構造と捕食圧：タケノコガイ科巻貝における捕食圧の推定
- P25 村宮悠介・三上智之・吉田英一・勝田長貴・隈 隆成 メゾンクリークの菱鉄鉱質コンクリーション群におけるコンクリーション中の炭素量と化石サイズの関係
- P26 北田 旭・林昭次・鶴島基博・大江新一・山野井徹・久保麦野 山形県立谷川河床より産出したシカ糞化石生成者体サイズの推定
- P27 岩根佑吾・小竹信宏 新第三系三浦層群三崎層産生痕化石 *Archaeozostera* の形成者の古生態
- P28 西澤 輝・泉賢太郎 中生代以降の深海ベントスの糞食による摂食効率化現象の検証：新たな数理モデルの構築と解析
- P29 海野 奏 カブトガニ類の生痕化石と現生生痕の動物行動学的分類の統合
- P30 清水啓人・海野 奏・立石 良・佐野晋一 水中ドローンを用いた海底地形・現生生痕調査のための基礎的研究—可搬型 GPS 魚群探知機を用いた水中ドローンの位置情報の把握—
- P31 久保貴志・猪瀬弘瑛・安里開士・望月貴史・菜花 智・いわき自然史研究会 福島県いわき市の双葉層群玉山層のコンボウガキ属密集層の古環境と古生態
- P32 今井 悟・中山健太郎 島根県隠岐島前に分布する下部中新統美田層より 産出した淡水生貝類化石群
- P33 新山颯大・藤田和彦・田中源吾・神谷隆宏 沖縄島那覇港沖の海底コア試料中の知念層から産出した介形虫化石群
- P34 佐藤勇哉・相場博明・大山 望・高橋 唯・佐藤たまき 栃木県那須塩原市塩原層群から産出したヤゴ化石と水生昆虫に基づく古環境の推定
- P35 林 辰弥・大野正夫 北大西洋亜極域における鮮新世後期から更新世初期の珪藻
- P36 久保 観・岩谷北斗・佐々木聡史・片山 肇・杉崎彩子・板木拓也・井上卓彦 八重山列島周辺海域の現生貝形虫群集
- P37 岡崎裕典・林 亮太・野牧秀隆・加藤悠爾・池原 実 南大洋大西洋区断裂帯における珪藻マット堆積物の特徴
- P38 大井勝成・久保田彩・西田治文 新たな生殖裂片鉱化石に既知の化石を加えて推定したフサンダ目の進化史

## 高校生ポスターセッション

- HP1 田島 満・大塚万優・清水祐希 下総層群から産出したウミシダ骨片化石
- HP2 大塚万優・田島 満・清水祐希 彦根市の上部更新統泥炭層から産出したササラダニ化石 *Limnozetes ciliatus* について
- HP3 黒田奈那 愛媛県における恐竜化石発見の可能性
- HP4 中矢竜生・根岸 漂・洲濱 愛・岡本 隆 アンモナイトの個体群動態を再現する
- HP5 石井陽風・石川采燈 ヘリコプリアンの顎部ロボ化石による再現

2月5日（日）会場：九州大学病院キャンパス 医学部百年講堂 中ホール

【9:00-10:15】一般講演 口頭発表3（A-C会場）

A会場(対面のみ)	B会場(ハイブリッド)	C会場(対面のみ)
分類・古環境の部 座長:久保田克博	普及・学史の部 座長:木村由莉	古生態の部2 座長:田中源吾
A12 望月ちほ・矢部 淳・寺田和雄・立石 良・佐野晋一 富山市大沢野地域に分布する中新統黒瀬谷層の堆積初期の植生と堆積環境の検討	B12 志賀健司 フライドチキン骨格に恐竜を見る～身近な食材による博物館教育	C11 川邊恵大・上松佐知子 栃木県塩原地域の中新統鹿股沢層より産出する板鰓類化石群集
A13 姜 淞耀・重田康成・山田敏弘 北海道産白亜紀ヒノキ科スギ類(旧スギ科)の球果化石	B13 丸山啓志・北川博道・松岡廣繁 ナウマンゾウ模式標本のCTによる再構築像を用いた観察	C12 出口柚月・佐藤慎一・中村大亮・塚越 哲 諫早湾干拓調整池内のコア試料における貝類遺骸集団の変遷と貝形虫遺骸との比較
A14 馬場美邑・山田敏弘・西田治文・池田昌之・西村智弘・ルグランジュリアン 北海道蝦夷層群の花粉化石層序からみた白亜紀の植生変遷	B14 北川博道 化石研究と文化財	C13 唐沢與希・御前明洋・松井久美子 和歌山県の上白亜系鳥屋城層から産出した病理変異を有する <i>Menabites</i> (アンモナイト目コリンニョニセラス科)化石
A15 湯川弘一・大山 望・篠田健二・高橋文雄 上部三畳系美祢層群桃ノ木層における立木化石の発見	B15 中谷大輔・姫野順一・イサベル 田中 ファンダーレン・小平将大・早川昌宏 横山又次郎の前半生を写した写真群	C14 森野善広 上部ジュラ系小池石灰岩の堆積相と生物相(その2): 大型化石の産状と古生態
	B16 矢島道子 もっと古生物学史・古生物学哲学を	C15 安藤寿男 東北太平洋岸3干潟(万石浦, 櫃ヶ浦, 松川浦)に発達する 現生マガキ礁の分布と産状:カキ化石層形成過程理解に向けて

【10:15-10:30】休憩

【10:30-11:45】一般講演 口頭発表4（A-C会場）

A会場(対面のみ)	B会場(ハイブリッド)
分類・古生態の部 座長:藤原慎一	古環境・地史の部 座長:板木拓也
A17 北川博道 本邦産出ステゴドン化石の分類の課題	B17 萩野 穰・菅井 昭・大竹里梨・本山 功 新潟県胎内市の中新統内須川層から産出した放散虫化石と日本海の中古環境
A18 久保田克博・小林快次・池田忠広・田中公教 兵庫県丹波篠山市に分布する篠山層群大山下層産獣脚類恐竜の新たに確認された部位と系統学的位置の検討	B18 松岡 篤・川尻啄真・高橋啓太・志津田育正・漆山 凌・松本 健・茨木洋介・寺田和雄 長野県小谷村浦川流域のジュラ系下部統来馬層群の堆積環境と樹幹化石の産出

A 会場(対面のみ)	B 会場(ハイブリッド)
A19 木村由莉・Olivier Maridet・安藤佑介・合田隆久 日本初の新第三紀モグラ化石の特異的な形態形質	B19 長谷川卓・応用試料解析実験受講者一同 金沢市犀川中流域に露出する犀川層, 小寺山層および大桑層から抽出された長鎖アルケンとその古環境学的意義
A20 瀬岡理子・松岡廣繁・小池伯一 長野県の中部中新統の別所層および青木層より産出したアロデスマスの coprolite	B20 北村晃寿・亀尾浩司・本山功・守屋和佳・齊藤 毅・渡辺真人・森 英樹 熱海土石流の発生源の盛土に含まれる軟質泥岩礫
A21 松岡廣繁・瀬岡理子・長谷川善和 群馬県中新統原市層産 <i>Annakacygna hajimei</i> の骨盤前方脊柱: アンナカコバネハクチョウは“エアサスバギー”だった	B21 藤野滋弘 Aptian 期の巨大津波による沿岸環境の変化
	B22 磯崎行雄・澤木佑介・岩野英樹・梶座圭太郎・平田岳史 下部白亜系手取層群と飛騨帯の東アジアにおける古地理上の位置

【12:00–12:15】ポスター賞表彰式 (中ホール 1, 2, 3 & オンライン同時中継)

【12:15–13:40】ランチオン小集会 (中ホール 1, 2, 3 & オンライン同時中継)  
古生物学の魅力発掘 2023: 若手の取組みとソトからみた古生物学の見え方  
(持続可能な発展のための国際基礎科学年関連事業)

世話人: 日本古生物学会将来計画委員会 SDGs・研究倫理分科会

趣旨: 「持続可能な発展のための国際基礎科学年」が制定され, 基礎科学の重要性が再確認されている。しかし, 基礎科学に継続的に投資していくことの理解を得るためには, 基礎科学を探究する我々からその魅力を一般へ普及および認知向上するための情報発信が不可欠である。本小集会では, この基礎科学からの情報発信のあり方を議論したい。

趣旨説明

大山 望 (九州大) : ソトとナカをつなぐ「古生物学若手のための会」の発信方法

田口康大 (東京大) : 古生物学ってこうですよ—観客席からの見え方からの提言—

総合討論

### \*\*\*\*\* 3. 発表方法及び機器についての注意事項など \*\*\*\*\*

#### <口頭発表をされる方へ>

**【重要！】個人口頭講演A, C会場ではパソコン等持参です！貸出はありません。個人講演B（ハイブリッド）会場では備え付けのパソコンで講演して頂きます。**

- ・一般講演の口頭発表時間は15分です（質疑応答，使用機器の接続時間含む）。

#### A, C（対面のみ）会場で講演される方へ

- ・接続端子は，HDMIかmini D-Sub15ピンの2種類のみです。それ以外の端子の場合はご自身で変換アダプターをお持ち下さい。
- ・休憩時間などに接続状況を確認して下さい。接続作業時間も講演時間に含みます。
- ・パソコン等の接続・操作は，発表者ご自身でお願いします。
- ・発表者ツールを使う場合は拡張モード。

#### ハイブリッド会場（B会場，大ホール）で講演される方へ

- ・ハイブリッド会場では，備え付けのパソコンでプロジェクターに投影した拡張画面をZoomで画面共有したままにしますので，通常の学会と同じようにPowerpointのスライドショーを表示していただくだけでその画面がそのまま共有されます。講演が終わっても画面共有を解かず，共有したままで発表ファイルを閉じて下さい。
- ・Zoomを介したハウリングを防止するため，オンライン参加者が質問している間は講演用パソコンをミュートにし，演者が話すときや会場参加者が質問しているときはミュートを外します。
- ・講演者のビデオはオンにしたままとします。

#### <ポスター発表をされる方へ>

- ・本例会のポスターセッションは完全オンラインです。
- ・ポスターファイルは，10MB以下のPDFとして作成して下さい。縦横比は問いません。参加登録をお済ませいただいた上で，1月20日（金）までに，以下の専用サイトにログインして「ポスターアップロード」ボタンからファイルをアップロードして下さい。

<https://psj172.award-con.com/LOGIN.php>

- ・コアタイムには，講演毎にZoomのブレイクアウトルームを割り当て，その中で参加者と議論して頂きます。~~医学部百年講堂の無線帯域も限られていますので，~~現地参加者の方は，お泊りのホテル等から接続して下さいますことを薦めます（そのために個人講演終了後1時間空けています）。ブレイクアウトルームを利用するために，Zoomを最新版にしておいて下さい。ブレイクアウトルームで資料等を画面共有して頂くこともできます。

## ＜オンラインで参加する方へ＞

- ・第172回例会では、シンポジウム、会長講演、特別講演、ランチョン小集会、ポスターセッションにオンラインで参加できるほか、個人口頭講演はハイブリッド会場であるB会場のみを配信します。A、C会場はオンラインでは聴講できません。
- ・Zoomで質問するためには、マイクとスピーカー付きの端末が必要です(内蔵外付け不問)。
- ・Zoomへの接続時にはかなりの通信量が発生します。回線が細いと(上り10 Mbps以下等)接続が不安定になる恐れがあります。発表者がご自身の責任で接続環境を確保して下さい。
- ・Zoomの使用に不馴れな発表者の方は、事前にZoomテストミーティング(<https://zoom.us/test>)に接続して接続試験を実施しておいて下さい。この接続試験は、お使いの端末での接続環境(Zoomの起動、スピーカーとマイク)を確認していただくものです。  
Zoomの操作方法については、下記の簡易マニュアルをご参照ください(最終版は1月にアップデートする予定)。

[http://www.palaeo-soc-japan.jp/events/manual\\_simple.pdf](http://www.palaeo-soc-japan.jp/events/manual_simple.pdf)

### 発表方法・オンライン参加に関する問い合わせ先

行事係：生形貴男(京都大学) E-mail：[ubukata@kueps.kyoto-u.ac.jp](mailto:ubukata@kueps.kyoto-u.ac.jp)

## その他

- **マスクの着用**：現地参加される方はマスクのご着用をお願いします。
- **録画・撮影について**：発表者の許可なく講演を録画・保存・撮影することを禁止します。
- **演者以外はマイクとビデオをミュートして下さい**。チャットも濫用しないでください。
- **予稿集について**：第172回例会では予稿集の冊子体は配布しません。学会HPからPDFをダウンロードしてご利用ください。
- **Zoomのインストール**：オンライン参加者に限らず、Zoomというアプリケーションを使います。Windows 7以降、Mac OS 10.9以降のOSで使えることになっています。参加される方は、ご自身で事前にZoomをインストールして下さい。Zoomは以下の公式ダウンロードセンターから入手できます。

[https://zoom.us/download#client\\_4meeting](https://zoom.us/download#client_4meeting)

パソコンにインストールする場合は、上記ページの一番上に配置されている「ミーティング用Zoomクライアント」のダウンロードボタンを押してファイルを保存して下さい。WindowsからアクセスするとZoomInstaller.exe、MacからアクセスするとZoom.pkgがダウンロードされます。Windows10の場合、上記ファイルを実行するだけでインストールが終了します。Macにインストールする場合は、以下のサイト等を参考にして下さい。

<https://zoom-support.nissho-ele.co.jp/hc/ja/articles/360023068011-Mac>

2020年12月以降にダウンロードした場合アップデートの必要はありません。Zoomが

インストールされている端末であれば、年会専用サイトから各会場へアクセスできます。専用サイトの利用方法については、下記の簡易使用マニュアルをご参照下さい。

[http://www.palaeo-soc-japan.jp/events/manual\\_simple.pdf](http://www.palaeo-soc-japan.jp/events/manual_simple.pdf)

- **Zoom の最新版へのアップデート**：本例会では、懇親会やポスター会場等にブレイクアウトルームを設け、参加者同士の議論・懇親の場として利用して頂く予定です。ブレイクアウトルームを参加者自身が行き来するためには、Zoom のバージョン 5.3.0 以上が必要です。それより古いバージョンをお使いの方は、事前に最新版にアップデートしておいてください。アップデートには Zoom アカウントが必要です。お持ちでない方は、<https://zoom.us/> から Zoom の公式サイトにアクセスして、ページ右上「サインアップは無料です」をクリックし、表示に従ってサインアップしてアカウント（無料でも可）を作成して下さい。アカウント作成後、Zoom を起動して「サインイン」を選択、登録したメールアドレスとパスワードを入力してサインイン、右上に小さく表示されているプロフィールボタン（マウスを当てると「利用可能」と表示される）からプルダウンメニューを表示させて、「アップデートを確認」で最新版にアップデートできます。
- 第 172 回例会では事前の参加登録が必要です。技術的な個別のお問い合わせには学会として対応できませんので、ご自身の責任でご準備の上ご参加ください。

行事係：生形貴男（京都大）E-mail：ubukata@kueps.kyoto-u.ac.jp